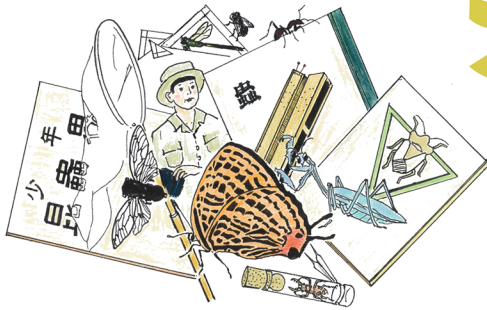


昆虫採集の

光

と

闇



昆虫採集というと何を連想しますか？
夏休みの自由研究？ 教科書で読んだヘッセの『少年の日の思い出』？ あのミステリの犯人!?

昆虫採集は西欧で誕生しましたが、
日本ほど大衆に受け入れられた例は他に類を見ないと
言われます。かつては学校教育で奨励され、
健全で有益な趣味として大人にも浸透していました。

本講座では、昆虫への関心が社会現象となった
昭和初期の「昆虫黄金時代」を中心に書物をひもとき、
是非や善悪を問うのではなく、光と闇という切り口で昆虫採集を見つめ直します。

前篇は昆虫採集が社会的地位を得るに至った「光」の面を検証し、
後篇は「昆虫黄金時代」と同時期に花開いた「エログロ・ブーム」、戦争との関係、
フィクションに現れる昆虫コレクター像などから「闇」の面に迫ります。

講師：

魚返 真央（おがえり・まお）

とき： 5月13日、27日

共に日曜日、昼2時～4時

ところ： 公民館3階 講座室

定員： 25名（申込先着順）

申込： 4月13日（金）朝9時～

公民館 ☎ 572-5141

主催： 国立市公民館 &

一橋大学言語社会研究科

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。
そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。
最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！
院生が講師となって専門分野をご紹介します。

一橋大学
院生講座